

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

【愛知県刈谷市立富士松南小学校活動報告】

それぞれの学年の活動の中に地域の「ひと・もの・こと」を取り入れることで、子どもたちの地域に関する興味・関心を高めることができた。また、身近な素材を活用することで、子どもたちの活動意欲も長く継続することにつながった。その中で、第4学年の実践を詳しく紹介する。

学 年	地域との交流を設定した活動予定	あいさつ運動
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・めざせ！つうがくろのたつじんになろう ・通学路の秘密を見つけよう ・通学路の安全を見つけよう ・安全を守ってくれている地域の人にお礼のお手紙を書こう 	○交通指導員・パトロール隊・スクールガードリーダー・PTA交通立ち当番（登校時における交通安全指導）の方へのあいさつ ○児童会役員によるあいさつマスター運動 ○南・北舎昇降口廊下をあいさつ通りと命名し、あいさつに対する意識を高める。 ○児童会役員・生活委員会による校門でのあいさつ運動（学期に1回）
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・「富士南のはらうた」を見つけよう（自然がいっぱい、発見いっぱい富士南学区） ・学校の春を発見しよう ・生き物を発見しよう ・町の中の自然を発見しよう 夏・秋・冬 ・富士南のはらうたを音楽会で発表しよう 	
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住む地区（泉田町・今川町・今岡町）はどんなところか調べよう ・学区にあるコンビニエンスストアの役割を調べよう ・学んだことを生かしてとみ南フェスティバルでお店を開こう 	
4 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタルの幼虫の放流をしよう（地域の建設会社の協力）4月 ・学区の川（逢妻川）の水質検査をしよう（地域の建設会社の協力）5月・9月 ・昔の逢妻川について地域の方の話を聞こう ・花池の蓮の花を守る活動に参加しよう（花池蓮愛好会の方の協力） ・花池蓮愛好会の方とともに、蓮を田に植えたり、（4月）蓮の花の観賞会（7月）に参加したり、蓮根の収穫（12月）に参加する 	
5 年	<ul style="list-style-type: none"> ・米作り（田植え・稲刈り）、もちつき会を行おう。（6・10・1月 地域の農家の方の協力） ・地域の防災について学び、防災訓練に参加しよう ・今川地区防災訓練参加 11月 ・地域の園児を招待しよう「もちつき会」1月 ・地域の園児と手作りおもちゃで交流しよう 2月 	
6 年	<ul style="list-style-type: none"> ・学区（今川町）に残る旧東海道を散策しよう（6月） ・学区（泉田町）に残る遺跡（神社・貝塚など）を巡ろう（6月） ・東海道名物「芋川うどん」を作って食べよう（11月） ・学区に残る民話を調べる。 	

【第4学年実践】

総合的な学習の時間・社会科・国語科 単元「地域の環境を守ろう」

1 単元の見学

- ・地域の活動を知り、実際に地域の自然に親しむことで地域のすばらしさを知り、自分の思いを深めることができる。
- ・他教科の学習と関連させることで、環境問題についてより深く理解し、地域の環境について切実感をもって解決に取り組んでいくことができる。

(1) 地域の自然や人と触れ合う中で地域のすばらしさを知る子どもたち

地域の自然に触れ、環境を守るために活動する人々と出会うために、子どもたちが「地域の宝物」として知っている花池・蓮田の見学を定期的に行うことにした。

5月に蓮田に行き、「花池蓮愛好会」の方に蓮の苗の植え方を教えてもらった。子どもたちは初めて入る蓮田の感触に、声を上げて興奮しながら蓮を植えた。

7月初旬の蓮田の見学では、蓮田には葉が茂り、花が咲いていた。また、花池愛好会の方から、花池や蓮田からは、最近生き物が少なくなっていることを聞いた。原因について話し合う時には、「だれかがよごしているせいじゃないか」と考えた子が多かった。

11月、蓮田の蓮根の収穫を行った。泥の中に蓮根ができていたとは知らなかった子どもたちは、蓮田の中にある蓮根に戸惑いながらも、泥田に入り蓮根を掘り出した。愛好会の方に「ここを掘るといい」と教えられ、隠れた蓮根を掘ることができた。収穫後、愛好会の方が、花池・蓮田にゴミが捨てられていること、ゴミを捨てない地域にしてほしいことを子どもたちに伝えた。振り返りの場では、子どもからは収穫の喜びと大変さ、掘った蓮根を調理して食べた思い出とともに、蓮根掘りの準備をしてくれた愛好会の方への感謝の思いが発表された。

(2) 教科と領域を横断的に関連させたことにより、地域への理解を深める子どもたち

① 国語科での実践：俳句作り

7月の蓮田観察からは、全員が俳句作りを行った。7月末、蓮田で地域を挙げた「蓮祭り」が行われた。このときには、会場は子どもたちの作った俳句が展示された。3回目の見学後、子どもたちの中から、収穫の喜びや、支えてくれた愛好会の人への感謝を込めた俳句を作ろうという声が上がった。また、3学期に自分たちが花池・蓮愛好会の人に感謝の思いを伝えるとき、俳句を使ったらどうかという意見も出された。

② 総合的な学習の時間と社会科での実践：地域の環境問題

ア ホタルの放流

4月、地域の企業の環境プログラムの一環でホタルの幼虫放流体験を行った。子どもたちにとって間近で見るホタルの幼虫の姿には驚きがあった。同時にホタルやメダカなどの生き物が地域から消えていることも知り、子どもたちの中に、「なぜ、いなくなったのか」という疑問が生まれた。そして、疑問の答えを見つけるために逢妻川・境川の水や水道水のパックテストを行った結果、学区を流れる水はきれいだが、ゴミが多くて生き物が住みにくいことが分かった。

イ 逢妻川浄化活動

7月、先のホタル幼虫放流体験を受け、逢妻川の調査を行った。この活動でも、地域の企業の協力でパックテストを行ったり、川の流れの速さや水の透明度について調べたりした。その後、川の岸の周辺に落ちているゴミを拾い集めた。子ども

もたちは、活動結果を新聞にまとめ発表した。

ウ 地域のゴミ問題

9月、社会科で地域のゴミ処理について学習した。逢妻川浄化活動の経験から、子どもたちはゴミを減らす活動ができないかと考え、「ゴミ減量作戦」を実施することにした。ゴミの分別やリサイクルについて自分の家庭に呼びかけたり、ゴミを減らす工夫をカードに書いたりし、それをもとに実践をした。

また、11月に「小堤西池のカキツバタ群落を守る会」を学んだ際には、自分たちも天然記念物を守るためにゴミ拾いをしたいという意見が出された。さらに、それを通して花池蓮愛好会の人も同じように地域の自然を守るために活躍しているということに気付いていった。そこで、「地域の環境を保護するためにどうすればよいか」とのテーマに対して、花池・蓮田でゴミ拾い活動などをしたらどうかという意見が出された。

(3) 気付きを練り合い、伝えていこうとする子どもたち

富南フェスティバルに向けて、何について発表するかと投げかけると、次第に学区の自然である花池の環境を守る劇やクイズを作りたいという方向で話がまとまっていった。発表については、「クイズすごろく」「ブラックボックスクイズ」「環境についての劇」の3つのグループができた。

最初、劇では「ミシシippアカミミガメに気を付けよう」、クイズでは「蓮の花の色は何色でしょう」など、花池の表面的な内容に留まっていることが多かった。そこで、子どもたちに自分たちの活動やそれぞれの気付きを深める場を設定した。手だての一つとして、録音しておいた「蓮愛好会の方の話」を流すと、話し合いが一気に深まり、子どもたちは取材したことを思い出しながらどんな劇やクイズにしようかと考え始めた。

さらに劇の台本を提示し、発表をよくするにはどうすればよいか話し合った。子どもたちからは「蓮を守っていることを伝えたい」「蓮根掘りのお礼を入れたい」という思いが出され、愛好会の方への思いが強くなっていることが感じられた。その後、出された意見をもとに台本に使う部分の取捨選択の話し合いを行った。富南フェスティバルが始まると、劇やクイズも、最初に子どもたちの思っていたのとは違い、トラブルが起きたりしたが、その場その場で対応して、次第にスムーズに発表できるようになっていった。さらにフェスティバル後に行った振り返りでは、蓮愛好会の人だけでなく、地域の様々な人の努力があることにも多くの子どもが気付いていた。活動に満足するだけでなく、たくさんの人々への感謝の思いをもつことができた様子がかがえた。

5 成果と課題

自然の素晴らしさを繰り返し体感させることで、その場でしか発見できない気付きが生まれ、逢妻川や蓮田を身近な自然として感じたり見つめ直したりすることができた。校外での様々な体験活動の場で、専門的な知識や生活感のある話を聞く場を設定していくことで、学区の自然をより身近に感じ、大切にしていきたいという気持ちを高めることができた。また、地域の人々との触れ合いやつながりの大切さ、感謝する気持ちを育むことができた。「新聞作り」や「俳句作り」や「富南フェスティバル」で全校に学びを知らせる場を位置づけることで、体験活動での取り組みの成果を確かな自分の考えとしたり、仲間と関わり合って発信する喜びを感じたりすることができた。

今回の学習で子どもたちが学区の自然をより身近に感じたことで、学区の自然を守るために少しでも具体的な活動ができるようにすることが今後の課題である。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）